

KSKP

たびだち つうしん

出

発

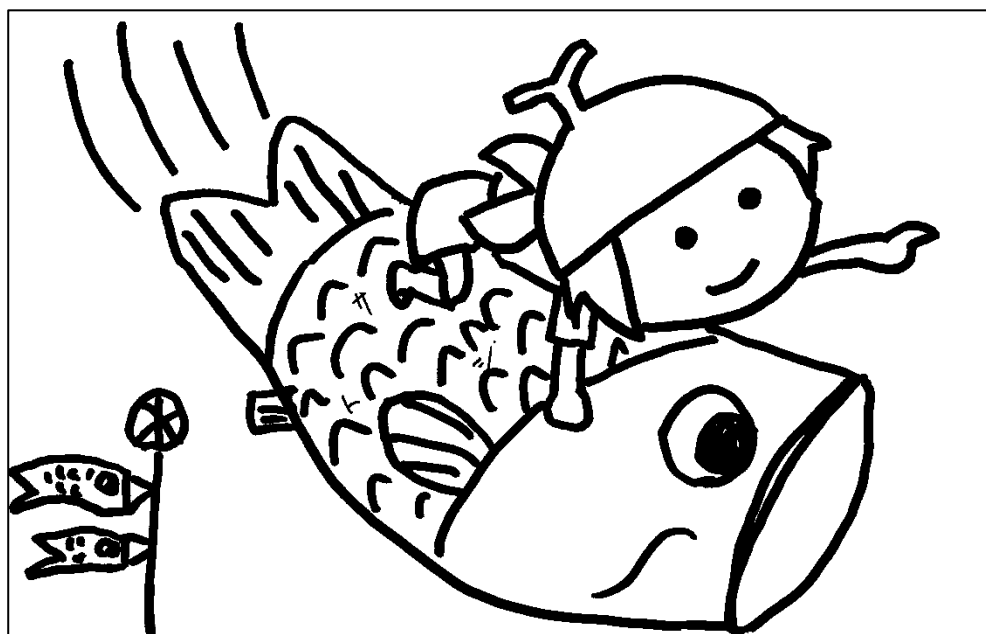
通

信

NPO法人 出発のなかまの会

184号

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



もくじ
目次

「やっかいさと生きる」 <small>い</small>	2
.....
どんどん交流会 <small>こうりゅうかい</small>	4
.....
みらくるクラブ通信より「同窓会もちつき」 <small>つうしん どうそうかい</small>	5
.....
インターンシップを振り返って <small>ふりかえ</small>	6
.....
りずみカップ	7
.....
いつもと違う辻さん、いつもと同じ辻さん <small>ちが つじ おな つじ</small>	8
.....
赤倉温泉スキー旅行報告 <small>あかくらおんせん りょこうほうこく</small>	9
.....
スタッフ子育て日記 <small>こそだ にっき</small>	10
.....
総会案内 <small>そうかいあんない</small>	11
.....
活動のあと <small>かっどう</small>	12
.....

「やっかいさいと生きる」

さ がつ か ち い き きょうせい ぜんこく けんきゅうこうりゅう さくねん つづ
 去る 3 月 14 日、地域共生ケア全国ネットワーク研究交流フォーラムが昨年のプレフォーラムに続き
 おおさか かいさい
 大阪で開催されました。

ことし きじ とお しゅさいしゃだいひょう そうまん かんが なお
 今年のテーマは記事タイトルの通り!どうですか、このテーマ。主催者代表の惣万さんも「考え直し
 てんわ おも たにん おも い おも
 てと電話しようかな」と思ったけれど「いやいや。きっと他人のことを言っているのではないな。と思って」
 い とお ひと たが
 と言われる通り、「ごやっかい」になったことがない人っていないんじゃないでしょうか。お互い「やっかい
 さ かか きも す いばしょ き
 さ」を抱えながらも気持ちよく過ごせるからこそ「居場所」なのだ気づかされるテーマです。

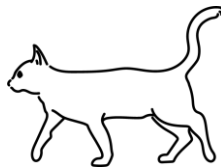
フォーラム初日のまちあるきでは、そんな「居場所」のひとつである富田林の“わっくCafé”さんに行
 かせてもらいました。日替わりオーナーの店で壁にはBOXショップが設置してあり、売り上げは海外に
 寄付しているという中学生グループのBOXや、もうプロ並み!という作品が並んだBOXなど様々なショ
 ップが並んでいます。火曜日から土曜日は毎日開ける仕組みを作られていて、それは単なるCaféでは
 なく「居場所」としての役割を果たしているからです。わっくCaféさん以外の居場所や支援拠点も見学
 させてもらい、理事の岡本さんに「禁止していることがありますか」と尋ねると「何ともありません。『どうや
 ったら活動し続けられるかを自分たちで考えて。』と伝えているだけ」とのこと。よく様々な校則がマスコ
 ミでも話題になりますが、自分たちで考えられたら素敵なアイデアが
 う 生まれそうですね。ソーシャルディスタンスを叫ばれたコロナ禍では子
 どもたちは一律に教室の前を向き黙食を命じられましたが、こんな時
 こそ、この場が必要だと活動が続けられクラスターが起きることもなか
 ったそうです。それも集まった人たちが「自分たちの居場所のことを
 自分たちで考えたから」に違いありません。



ふくだい とく いばしょ しめ おお つく
 副題に『ちいさな取り組み・ちいさな居場所』と示されているように、大きなテーマパークを作ったり
 けいぞく おも いきぎ まいにちい せんじつ かいさい
 継続していこうと思うとそれだけで息切れしそうです。そしてそこに毎日行くでしょうか。先日、開催した
 えいがじょうえいかい こ いばしょ
 映画上映会「ゆめパのじかん」も子どもの「居場所」がテーマです。ホッと肩の荷を下ろせる場所、ゆっ
 くり休める場所、ばちばち歩き出せる場所、そんな取り組みが認められ広がっていきますように!

フォーラム、とても面白かったんです。わくわくしたんです。でも悲しいかな、この記事では全く伝わら
 ない。来年の開催地は広島です。是非、足をお運びください。広島で会いましょう!語り合いましょう!

すがた ゆか
 (菅田 裕加)



このフォーラム、実行委員として参加しました。昨年のプレフォーラムでまちあるきが好評だったこともあり、今回もまちあるきを取り入れることは早々に決まりました。「居場所」と言っても、それぞれの地域によって規模、集まる人の特性、距離感などが随分と異なります。全国から参加者が集まる企画だからこそ、それぞれのまちを歩いてもらい、そのまちの雰囲気、課題を肌で感じながら居場所に来てもらう、そんな企画をめざしました。当会は全国から集まった15名の参加者に駅から松野農園に歩いてもらい、その後、いくつかの居場所をめぐってバス停まで歩いてもらいましたが、「あー、長屋って(壁が)くっついていて一軒一軒が別の人の家なんですね」「こんな(狭い)場所でやっているデイサービスがいっぱいあるの?」「生野ってそんなに少子化がすすんでいるんですね」などなど、とても驚かれました。そして、「思った以上に疲れました。。。田舎の人はすぐに車に乗るので。」と、約2.3kmのまちあるきにくたくたになった方も。9か所の居場所それぞれが、違う地域の特色・課題に向き合った場所であることを感じてもらえたのではないかと思います。まちあるきの後、全員が集まってのシンポジウム、重層的支援体制整備事業の行政説明、解説、2日目には研究者や実践者によるリレートークと本当に盛りだくさんな内容でした。この紙面にはとても書ききれませんが、「フォーラムの内容をもっと知りたい」という方には当日資料(1部1,000円)を販売しておりますので、会場までお問い合わせください。

大阪の実行委員の“思い”がぎゅっと詰まったフォーラムでしたが、実は、何よりも楽しかったのが、実行委員会。「会議は1時間半で絶対に終わる!」と時間厳守で終わり、その後はエンドレスで交流会。回を重ねるごとにお開きの時刻は遅くなり、始発電車と共に帰ることも(笑)。一見、マイナスな印象を持たれるであろうテーマ「やっかいさと生きる」も、この長い語り合いの時間を経て、ようやく決まりました。“厄介”は他人のことではないこと、それぞれ自分の中にある“厄介”“厄介さ”を受け入れ、どう共存しながら生きていくのか、それこそが“共生”なのではないか、綺麗事では済まない“共生社会”をめざす私たちにピッタリなテーマではないかと考えました。毎回、交流会の終盤には酔っぱらって泣きながら、半分寝ながら、フォーラムのことだけでなく、自分自身のこと、最近読んだ本のこと、映画のことなどなど、世代を超えて語り合える人たちに出会えたことも、私にとっては楽しい収穫でした。この企画で出会えた、すべての人に感謝!!

(勝井 操)



こうりゅうかい
どんどん交流会

入所施設で暮らされている A さんの地域移行の取り組みで、どんどんで交流会を企画しました。A さんが入所施設を出てどんな暮らしがしたいか、少しでもイメージを持てればと、どんどんのメンバーは、自分の生活をスライドで紹介することにしました。

どんどんには、ひとり暮らしをしているメンバーやグループホームで暮らしているメンバーがいますが、みなさん、講演活動で何度も話をされているので、慣れた様子で映し出される写真をみながら話をしています。最初は少し緊張して聞いていた A さんでしたが、田中さんが「大きな古時計」を歌いだすと、一緒に歌ってくれました。これで場の雰囲気は穏やかになって、カラオケや野球、ドラえもんが好きという共通点も見つかり、「一緒だねー!」と盛り上がりました。仲田さんの冗談にスタッフがっこみを入れる様子を見て、A さんが声をあげて笑う場面もありました。北山さんは「片付けや料理は苦手だけど、ヘルパーさんに来てもらってるねん」と話されました。A さんが入所施設でどんな生活をされているのか、前もって考えておいた質問をしました。「お風呂は毎日入れますか?」「毎日入ってるよ」。「テレビは見ていますか?」「野球、ドラえもんが好きです」。「外出はどのくらい行きますか?」「自由じゃない。日曜日にローソンに行っています。誕生日に遠出をします」と、教えてくれました。

ワイワイと和やかな雰囲気であっという間に時間が過ぎ、最後に A さんが大好きだというドーナツをみんなで食べて交流会はおわりました。(石井香里)

大阪府がおこなった「令和6年度施設入所の待機者に関する実態調査結果」注1)によると、現在入所施設で暮らしている障害者本人やそのご家族などに対して、施設を出て地域で暮らす「地域移行」の説明と意向の確認がほとんどなされていないことがわかりました。その割合はなんと、入所者の約7割にも及びます。4分の3の人が「どこで暮らしたいか」を確認されることもなく、施設での生活を続けています。



この調査では、入所施設への入所を待っている障害者の人数(待機者数)が、令和6年3月31日時点で1,233人いることが分かっています。待機者の90%が療育手帳を所持しています。また、支援区分では、区分5、6の待機者が1,007人と82%を占めています。地域移行が進んでも入所を希望する人が減らなければ、入所施設で暮らす人は減りません。地域で生活するためには、グループホーム等の居住系サービスの拡充と、障害者のさまざまなニーズに対応できる支援者の養成が求められます。支援者の確保ができれば生活の継続が困難になります。サービスの質も量も足りない今の状況をなんとか打開していかなければなりません。

注1) https://www.pref.osaka.lg.jp/o090050/keikakusuishin/shogai_annai/taikisyatyouusa.html

同窓会もちつき

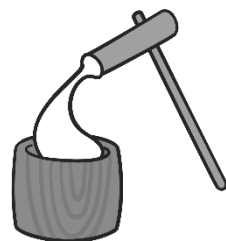
今回のみらくるクラブは同窓会でした。中学1年生～高校3年生までで、一度でもみらくるクラブに参加したことがある子どもたちが対象でした。リストアップしてみると、なんと 50 名以上が対象でした。どれだけ来るのかな？中高生の子もたちと何が出来るのか？考えたときに、もちつきなら、餅をついたり丸めたりと作業もあり、おしゃべりしながら久しぶりの子どもたちも楽しめるのではないかと考えました。参加を希望していたけれど、学校の部活動に行くことになったり、当日体調を崩したりする子もいて、参加者は高校生が 8 人、中学生が 5 人でした。

A さん(中学2年)は小学6年生以来久しぶりのみらくるクラブです。部活等が忙しく、みらくるクラブボランティアに参加できなくて、みんなと会うのは久しぶりでした。最初は少し緊張して口数も少なかったのですが、慣れ始めるとどんどんしゃべっていました。高校生たちが顔に片栗粉を塗って遊んでいる様子を見て A さんも真似したり、手に片栗粉をつけて大人の服で拭いてみたり、いたずらをして自由に動き回っていました。お餅もたくさん食べて、「お餅おいしいなあー。お餅食べれるから来てん。」と言っていました。一緒に参加していた姉の B さん(高校2年)は、A さんののはしゃいだような様子がいつもと違うので、楽しかったんだろうなと思っていたところ、帰りに A さんが「楽しかったわ。やっぱりみらくるクラブ楽しいな。」と言っていたので、「本当に楽しかったんだな」と改めて感じたそうです。中学生にもなると、顔に片栗粉を付けたり大人の服で拭くなど、羽目を外したいたずらをするこもなくなるでしょう。みらくるクラブではいたずらやふざけるこも許され、発散しながら楽しく過ごせる雰囲気があったのだらうと感じました。

中高生の中には、みらくるクラブにボランティアとして参加している人もいて、担当につく子どもが楽しめるように関わっています。今回はボランティアではなく、参加者として久しぶりに参加し、事前に「俺らが楽しんでいいやんな？」と確認する子もいました。終わりの会の時、「久しぶりに参加者として来て、楽しかったー」と言っている子もいました。普段はボランティアとして、緊張感を持って活動していると思いますが、自分たちが“主役”となり、自由にふるまえたことが良かったのかなあーと感じました。

今回は久しぶりに会う子どもたちもいましたが、すぐに輪に溶け込んでいました。年月が経ち、身長が高くなり、外見には変化がありましたが、昔話をしながら笑って過ごしている姿をみて、みんな根っこの部分は変わらず、楽しんでいるように見受けられました。再会を懐かしみ、その瞬間を全力で楽しんでいる子どもたちでした。

今回は中学1年生から高校3年生までが対象でしたが、次回は成人した人を対象に行おうと考えています。どのようなことをするのか、これから考えようと思います。また素敵な再会ができる事を願っています。



※本記事は 2025 年 3 月 31 日発行のみらくるクラブ通信を転載しています

インターンシップを振り返って

当会で大学生のインターンシップを受け入れるようになってかなり経ちますが、日本でもインターンシップに取り組む学生が増えてきたようです。当会では学生らが運営するNPOドットジェーピーを通じて学生の受け入れをしていますが、我々のようなNPOで活動するインターンシップに、大学1年生、2年生で参加できるのが特徴です。これまでに当会に来た学生の所属学部は、工学、理学、農学、法学、経済学など、学問領域は実に様々で、福祉領域の学生は稀です。また、インターンシップはアルバイトとは異なり、無償の活動です。受け入れる我々も無償で受け入れています。活動に参加する学生は「何でもやってみたい、知りたい」という探求心の強い人が多く、積極的に活動しています。

インターンシップでは、企画の立案から実施までを部分的に体験することで、達成感のある活動になるように考えています。過去には、サイクリング旅行や、キャンプ、ボーリング大会や自主上映会の企画準備、運営などに取り組みました。ときには、インターンシップ期間が終わっても関係が続くこともあり、大学卒業後にみらくるクラブのボランティアに来てくれる人もいました。アルバイトで来る学生が減っていることもあり、当会の活動に若者が関わる貴重な機会となっています。



学生に当会の活動を知ってもらうため、実際に障害のあるメンバーや子どもたちと活動することはもちろんですが、空き家の活用や廃校の再利用など、地域課題への取り組みに対しては、どの学生も興味深そうに話を聞いてくれます。自分達の住むまちや社会を良くしていきたいと思っている学生も多いようです。学生と課題解決のために何ができるか検討するのですが、その際の壁打ち相手が私の役割です。学生はおよそ2ヶ月の短期間にどんどん成長します。その吸収力はまるでスponジのようです。

実を言うと、インターンシップの受け入れには結構な手間も暇もかかるので、インターンシップの受け入れを継続するかどうか迷う部分もあります。しかし、学生と話をするのが楽しくもあり、学生を指導することで私自身が学ぶことも多くあり、やはり続けていこうと毎回思うのです。

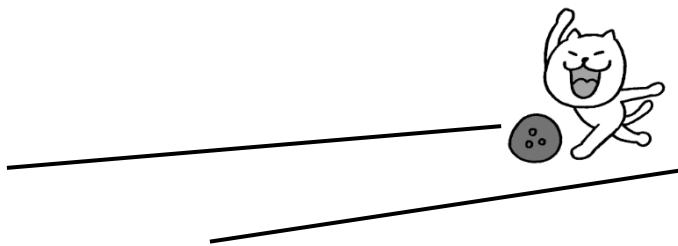


今春のインターンシップでは、久しぶりに学生とメンバーでボーリング大会を企画しました。企画の打合せをメンバーと一緒にして、学生とメンバーが相談してチラシ作りや賞品の買い出しなど、少しずつ準備を進めました。当日は、ガターにならないようにバーを上げたので、バーに跳ね返ってスペアになるなど、ミラクルが起きていました。2チームに分かれて合計点を競いましたが、勝っても負けても楽

しいのがわたしたちのボーリング。計算も自動化されており（はるか昔は紙に鉛筆でスコアを書いていました）、たとえルールがわからなくても、だれでも参加できるのも良いところ。今回の企画を学生と一緒に考えた塚本さんは、勝ったチームにも負けたチームにも賞品を用意しました。私は勝ったチームだけ賞品がもらえると思っていたので、やっぱり塚本さんはやさしい人だなと思いました。

次回開催のときは近隣のみなさまにもぜひお声掛けしたいと思います。それまでに…、こっそり練習に行こう！

いしいかおり
(石井香里)



りずみカップ

10人でボーリングに行きました。安藤さんとチラシをつくりました。とても楽しかったです。始球式をしました。そのときにストライクをだしました。みんなうまいこと投げていました。

ボーリングに行った人、①石井さん、②堀本さん、③山吹さん、④石田さん、⑤安藤さん、⑥塚本さん、⑦天野さん、⑧池田さん、⑨辻さん、⑩吉田さん、この10人でボーリングに行きました。とても楽しかったです。ボーリングでストライク2回連続出しました。スペアも2回連続出しました。10人でボーリングに行くのがはじめてでした。

ボーリングがおわってからココスにハンバーグを食べに行きました。景品も用意しました。メダルもつけました。

つかもとりずみ
(塚本莉朱実)



いつもと違う辻さん、いつもと同じ辻さん

3月4日から3日間、妙高高原の赤倉温泉スキー場に、メンバーの西澤さん、辻さん、山本さん3人と、スタッフ3人の6人で旅行に行ってきました。

今回、私は辻さんと一緒にスノーシューのレッスンを受けることになっていました。辻さんは体力もあり、バランス感覚もしっかりとされているので、私の方が大丈夫だろうか心配しながら出発しました。初日は電車での移動がほとんどで、妙高高原駅に着き、食材を購入し、夕食のすき焼きをインストラクターのIさんと一緒に食べて終わりました。



2日目、山荘からゲレンデまで辻さんと一緒に歩いて移動していました。少し雨が降っていて、辻さんは上機嫌でした。ゲレンデに着きインストラクターと合流し、レッスンを開始しました。辻さんはバランスを崩すことなく、どんどん雪山を登っていきます。10分おきに休憩時間を取っていましたが、辻さんは後ろを振り返り、登ってきた道を眺めているのか、遠くの山を見ているのか、とても楽しそうな表情をさせていました。登っている最中も「あいあい」と声を出して、とても楽しそうにされていました。1時間ほどのスノーシュー体験でしたが、あっという間に時間が過ぎ、辻さんも満足そうにされていました。ゲレンデを降り、辻さんと休憩をしながらコーヒーを飲んでいる時も、楽しそうに声を出していました。その後、他の4人と合流し、昼食を一緒にとるため、道路を歩いて少し離れたゲレンデに歩いて移動していると、雨が降っていたので道路の真ん中に雪解け水が流れており、辻さんは走って眺めに行っていました。車が通るたびに、道路の端に戻ってもらいましたが、また道路の真ん中に移動されるのでひやひやしました。

3日目は時間も無かったので山荘を管理しておられるご夫婦と記念撮影をし、電車で帰路に着きました。3日間と少し長めの旅行でしたが、いつもと違うメンバーの一面を見られ、非日常を味わうことができ、私自身もリフレッシュできました。

ほりもとまさひで
(堀本政秀)



旅行報告

赤 倉 温 泉 ス キ ー



① 2024-25 シーズンは久しぶりの大雪でした。2 月には 4 メートルを
 超える積雪がありました。3 月でも道の両側に雪の壁がありますね！

②と③ 西澤さんは子どもの頃からスキーをしているので、スイスイ〜と滑っていきま
 すよ！雨でも笑顔です！山本さんのスキーは、スキーの先端が重ならないように器具で固定し
 て、スピードを後ろのインストラクターが調整して滑ります。

④ 辻さんは、水の動きを眺めることが大好きで、今回の
 旅行でも雪解け水に心奪われていました。スノーシュー
 は、昔“かんじぎ”といわれていたもので、今はカッコイ
 イスポーツタイプのものになっています。

⑤⑥ 宿泊先の山荘では、自分たちで食事の用意をします。
 山本さんがカレーの具材を切ってくれました！



こそだ にっき スタッフ子育て日記

しばらく続いた雨の合間を縫った、晴れた日に息子の中学校の卒業式がありました。小学校同様休みがちではありましたが、先生、友だち、家族に励まされ、なにより本人が頑張り 3年間通いつける事ができました。

進路を決める際も、自分の夢の実現(電車の運転士になりたい)と学力などで悩みながらも(親が不安になっただけか)、最後は自分で決めることができました。そんな姿を見て日々成長を感じました。

親としてはあっという間に過ぎた3年間でしたが、息子に聞くと「それでもなかったよ」とのことで、多くの経験をした、充実した3年間だったようです。

卒業式の後に、息子ははじめ多くの卒業生が式に参加した親を置いてきぼりにし、お世話になった先生へのお礼、別々の進路が決まった友だちとの別れの挨拶や写真撮影をあちらこちらで行っていました。

思い起こせば、3年前の小学校の卒業式では、多くの親がわが子の腕を引いて、あの先生にお礼を伝えよう、あの子は私立に行つて会えなくなるから思い出に写真を撮つておこうなど言い合っていました。

お世話になった先生には、恥ずかしながらも自分のタイミングで思いを伝え、別れの時を共有したい友だちは、親も知らない同級生たちと、いつの間にか自分たちの力で自分たちの世界をしっかりと築けているのだなと思いました。

親の気持ちとしては何歳になつても子どものすることは心配で、つい手出し、口出してしまひようになりますが、卒業式の子どもの姿を見て、しっかり自分で切り開いた世界があり、親はそれを後ろから見守るだけなのだなと思いました。

少しさみしく、でもほつとした、これが“子離れ”なのかもしれません。そのような我が子の巣立ちを感じた、中学校の卒業式でした。

ひろさわしんべい
(廣澤新平)





総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。本当にたくさんの方々に支えていただき、2024年度を終えることができました。

これから“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、日々の活動をとおして『地域』づくりの取り組みを進めていきたいと思ひます。

下記の日程で、2024年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時：2025年5月26日(月) 15時00分～16時00分

場所：東成区民センター6階 小ホール(大阪市東成区大今里西3-2-17)

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください!

◆正会員…活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方

会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者…活動を支援して下さる個人・団体の方

寄付金 年間3,000円以上

認定NPO法人である当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】の対象となります。昨年、有効期間の更新手続きが無事終了いたしました。認定NPO法人を続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が100人以上必要です。引き続き、ご協力よろしくお願ひいたします。

【認定有効期間:2024年7月11日～2029年7月10日】

◆購読者…出発通信を購読して下さる方 購読料500円

☆振込先:郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

●他金融機関からの振込用口座番号

〇九九(ゼロキュウキュウ)店(099) 当座0306080

※すでにご寄付をいただいた方にも事務作業の都合で、振込用紙を同封させていただきます。お許しください。

活動のあと

1/8 生野区グループホーム連絡会世話人会	3/1 内部研修(人権研修) /障大連運営委員会
1/9 松野農園ランチ会	3/5 松野農園ランチ会
1/10 グループホームスタッフ全体会議/生野区相談支援事業所連絡会役員会 地域共生フォーラム実行委員会	3/6 どんどん交流会/消防設備等法定点検
1/11 内部研修(人権研修)/内部研修(感染症対策研修)	3/7 グループホームスタッフ全体会議/虐待防止委員会・ 身体拘束適正化委員会
1/14 内部研修(虐待防止研修)	3/8 「在留外国人と共に働く地域共生社会時代の“多様な働き方とは”」セミナー
1/16 内部研修(虐待防止研修)/内部研修(新人職員研修)合同研修会(社会福祉法人草の根共生会)/LINK UP JAJA 活動報告会	3/10 自主勉強会(ぴえん)/生野区相談支援事業所連絡会役員会
1/17 執行委員会/内部研修(新人職員研修)/ピロン(松野農園)	3/11 執行委員会
1/19 みらくるクラブ【運動会】(いくのパーク)	3/12 消防設備等法定点検/生野区グループホーム連絡会世話人会
1/20 自主勉強会(ぴえん)	3/13 喀痰吸引等安全委員会/内部研修(医療的ケア研修)
1/21 虐待防止委員会	生野区相談支援事業所連絡会
1/22 内部研修(新人職員研修)/生野区相談支援事業所連絡会 生野区 NPO 連絡会研修	3/14 内部研修(医療的ケア研修)
1/23 作業所エッセンス会議	3/14~15 地域共生ケア全国ネットワーク研究交流フォーラム in 大阪
1/24 生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会 地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会	3/15 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座
1/25 内部研修(発達障害勉強会)	3/16 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座
1/26 IKUNO サラダボウルプロジェクト食交流会	みらくるクラブ【同窓会もちつき】(松野農園)
1/27 出発通信発送	3/18 どんどんプロジェクト会議
1/28 内部研修(人権研修)	3/19 作業所エッセンス会議/生野区学童期子ども支援連絡会役員会
1/29 内部研修(人権研修)	自立支援協議会(相談支援部会)
1/30 執行委員会/内部研修(人権研修)	3/21 執行委員会 生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会
2/4~28 区民センターあじさいギャラリー展示	3/22 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座
2/5 グループホームスタッフ全体会議	3/24 第三者委員会
2/6 松野農園ランチ会	3/25~29 契約更新手続き(パート職員・ヘルパー職員)
2/7 生野区相談支援事業所連絡会役員会/地域共生フォーラム実行委員会	3/26 生野区 NPO 連絡会
2/8 内部研修(発達障害勉強会)	3/28 ピロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会
2/10 不登校・ひきこもり支援連絡会研修	3/29 内部研修(窃盗防止支援についての勉強会)
2/10~3/20 インターンシップ受入(大阪公立大学)	3/30 IKUNO サラダボウルプロジェクト(異文化交流 桜祭り)
2/12 GH 緊急行動ネットワーク研修	4/3 松野農園ランチ会
2/13 執行委員会	4/4 グループホームスタッフ全体会議
2/14 虐待防止委員会	4/9 自立支援協議会(グループホーム部会)
2/15 生野区学童期子ども支援連絡会主催イベント『みんなのはっぴょうかい』	4/10 生野区相談支援事業所連絡会役員会
2/19 生野区学童期子ども支援連絡会	4/11 執行委員会/地域共生フォーラム実行委員会
2/20 執行委員会	4/12 内部研修(みらくるちっぴ支援方針についての確認会)
2/21 生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会	4/15 作業所エッセンス会議
2/22 みらくるちっぴ Sくんを偲ぶ会	4/16 ヘルパー募集(関西大学)/生野区学童期子ども支援連絡会
2/24 『ゆめパのじかん』自主上映会&トークショー	4/17 ヘルパー募集(桃山学院大学)
2/25 内部研修(BCP研修)	4/18 ピロン(松野農園)
2/26 作業所エッセンス会議/内部研修(BCP研修) 生野区グループホーム連絡会/生野区 NPO 連絡会	4/20 みらくるクラブ【竹工作&あそぼうパン】(奈良県平群バンブーハウス)
2/27 内部研修(医療的ケア研修)	4/23 ヘルパー募集(近畿大学)/生野区相談支援事業所連絡会
2/28 ピロン(松野農園)/障大連運営委員会/地域共生フォーラム実行委員会	4/24 ヘルパー募集(四天王寺大学)/生野区 NPO 連絡会
	4/25 地域共生ケア生野推進委員会役員会
	4/26 内部研修(発達障害勉強会)
	4/28 執行委員会/自主勉強会(ぴえん)
	4/30 生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会

編集後記

ついに始まりました、大阪万博。会場内の支払いがキャッシュレスだけということが話題になりました。いつもニコニコ現金払いを基本にしている人にとって、これは大問題です。携帯電話もクレジットカード類も持っていないメンバーはどうすればいいのですか!! 巷でもキャッシュレスの店が増えています。デジタル化が進み決済難民と化す人々。不便な世の中になったものです。(石井香里)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011 大阪市生野区田島1-10-30
たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749
郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
ホームページ <https://www.tabidati.jp/> 780部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
発行人 関西障害者定期刊行物会 大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4階 頒価百円